

狛犬から直島の江戸時代を見てみよう！第3弾！

直島狛犬パネル写真展

& 講演会 & ワークショップ



直島の神社に鎮座する狛犬さん達は、江戸時代半ば頃から座ってきました。最長老は216年前に大阪から運ばれてきました。このような浪花狛犬は瀬戸内の島々の神社で、今日も現役で活躍しています。表情のある石造物「狛犬」、お子さんから年輩の方まで狛犬から垣間見える瀬戸内直島の「むかし」を楽しんで下さい。



場所：直島町総合福祉センターホワイエ

狛犬パネル写真展

令和6年2月11日(日)～2月25日(日)9:00-17:00(最終日は16時)

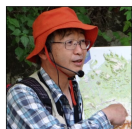
閲覧無料・講演会も無料(予約不要 40席)、月曜日休館

講演会 会議室

2/11(日)

①13:30～15:00

香川大学特任教授・讃岐ジオパーク構想推進準備委員会委員長
長谷川修一氏



「瀬戸内海と直島の成り立ちを知ろう」
直島27島はどのようにしてできたのでしょうか？

そこに人が集まり、文化が生まれ、歴史が紡がれました。プラタモリ案内人でおなじみの長谷川修一先生が、直島のジオポイントを解説して下さいます。

2/25(日)

午前10:30と11:00に20分間

会場展示物解説会あり

岡山、香川、近隣地域と直島の狛犬の特徴など
解説者 倉敷埋蔵文化財センター 藤原好二氏

ワークショップ

工芸室

2/18(日)

★ 要申込み

13:00～15:00 狛犬ハリコお面作り
氏名、年齢、電話またはメールをお知らせください。

小豆島のシマハリコ先生が教えてくれます。
型にお好きな色つけをして、首掛けと鈴がついて完成だよ！ 汚れてもいい服装か、エプロン持参できてね。制作費1ヶ、2000円20名まで。



②12:00～13:30

奈良学園大学特別客員教授 磯辺ゆう氏 「直島護王神社狛犬から見えてくる浪花狛犬の世界～特に蝦蟇型について～」 石造狛犬が

参道に出てくるのは、江戸時代の真ん中以降です。時代が下るに従い可愛さが増してくる浪花狛犬。蝦蟇型は後半です。



③13:45～15:15

大阪歴史博物館 杉本厚典氏

「近世大坂の石屋分布と廻船」

江戸時代の近世大坂は、北前船や菱垣廻船等が行き交う流通拠点であり物資の集散地でした。産物の中でも瀬戸内地域とつながりの深い石材について文献や発掘調査成果から大坂での状況のお話と、それを可能にした海運業についても触れて下さいます。



悪天候等で予定が変更になった場合、前日までに当会ホームページとふれあい通信直島広告にてお知らせします。

お申し込み、ご確認お問い合わせは、
電話 塩出080-3431-0246、メール 山西teruyama@rice.ocn.ne.jp

主催 小豆島狛犬探検会 <https://s-komainu.com>

後援 直島町教育委員会、小豆島町教育委員会、讃岐ジオパーク構想推進準備委員会
助成 公益財団法人 福武財団



直島のこまいぬたち

狛犬の魅力：表情のある石造物である
出身地が分かる
時代背景を見せてくれる
子供から大人まで楽しめる



直島講演会講師の先生方

2月11日（日）

香川大学特任教授・讃岐ジオパーク構想推進準備委員会委員長 **長谷川修一氏**

ジオパークの観点から地域の成り立ちを知り、弱みを防災教育に、強みを地域の魅力に生かす活動をされています。「食」と「ジオ」のお話もおもしろいです。

2月25日（日）倉敷埋蔵文化財センター **藤原好二氏**



2005年より狛犬調査。岡山県全域・香川県全域・広島県（調査中）の5000対を超える狛犬を見て近世から現代にかけての石工の活動、石造物の流通を把握されてきておられます。論考、講座講演多数。狛犬のこと何でも聞きましょう。

2月25日（日）12：00～13：30 奈良学園大学特別客員教授 **磯辺ゆう氏**



ご専門は、水生昆虫です。テリトリーの奈良の神社にあった幕末の名石工丹波左吉の狛犬に出逢ったことから狛犬に興味を持たれ、気がつけば、狛犬論文多数。護王神社の狛犬写真が磯辺氏の目に留まったことが、今回講演のご縁となりました。どのようなお話をしていただけるのか楽しみです。



令和5年9月
崇徳天皇神社銘読み

2月25日（日）13：45～15：15 大阪歴史博物館 **杉本厚典氏**

炭屋町（狛犬台座の銘によく出てくる地名です）

安永6（1777）年の『難波丸綱目』によると、この町には西国の国問屋・船宿が多い。炭屋町に居住していることが分かる商人・職人は42名、そのうち26名が西国の産物の問屋・船宿である。中でも讃岐国、備中国、阿波国といった瀬戸内地方の国問屋と船宿が多い。 ---略--- 大正9（1920）年の『大阪市商工名鑑』では、炭屋町に石関連産業は認められなくなる。

「近世大坂における石工・石商」大阪歴史博物館 研究紀要第17号（2019）より

大阪から見た塩飽の事を聞くのはこの方だと講演のお願いをしました。伺いたいことがたくさんあります。

お申し込み、ご確認お問い合わせは、電話 塩出 080-3431-0246、メール 山西 teruyama@rice.ocn.ne.jp